

出題のねらい

高等学校までに学んだ英語基礎学力が正確に身につけているかだけでなく、その英語力を日常生活やアカデミックなシーンで実際に運用できるかどうかを試すことが出題のねらいです。

大問Iは、文法、語法と語彙の基本知識の定着をみる単文問題です。大問IIは、近年増え続けているアジアからの観光客に、大阪に滞在すれば神戸、京都、奈良へのアクセスが容易であること、そして、その中でも奈良観光の魅力を具体的な見所をあげながら紹介しています。空所を埋める適当な表現を見つけるためには、文脈を正確に理解する力とともに、文法や語法の知識も必要になります。大問IIIは対話の問題です。大学生の男子ふたりが、一緒に映画を観に行く計画を立てています。空所の前後から自然な会話の流れを理解するコミュニケーション能力が要求されます。大問IVは、デジタル時代の子育てについて現状と問題点などが取り上げられています。文脈をたどりながら、内容を正確に捉えることが大切です。

【I】

【解答】 (30点)

1	③	2	③	3	①	4	④	5	④
6	③	7	②	8	①	9	③	10	④
11	①	12	①	13	③	14	①	15	②

(各2点×15)

【解説】

- 品詞の問題です。副詞の home を選びます。
- 比較級の問題です。「予想以上に」という意味になります。
- 先行詞を含む関係代名詞 what の問題です。「あなたの言っていたこと」という意味になります。
- 「普遍の真理」を表す場合、時制は現在形を用います。
- 仮定法過去完了の問題です。
- allow は to 不定詞を取り、しばしば受け身で用いられます。
- 「～する限り」という条件を示す as long as になります。
- take advantage of は「(機会などを) 利用する」という慣用句です。
- do the dishes は「皿洗いをする」の意味です。文脈から don't have to を選びます。
- count on…は「～を頼りにする」という意味の成句です。
- ことわざです。「郷に入っては郷に従え」。

- remind A of B で「AにBを思い出させる」という意味になります。
- such の語法の問題です。冠詞の a や an は such の後に置きます。
- 後に続く文から、「時間を節約してくれた」 save …a lot of time が適切な表現になります。
- 品詞の問題です。understand を修飾する hardly を選びます。

【II】

【大意】

多くの旅行者が日本にやっけてきていて、その大半が中国、韓国、台湾、香港からである。2016年にこれらの国々から訪れた人の数は合わせて1,700万人以上であった。これらに次ぐ米国からは120万人を上回る程度であった。最も人気のある行き先は、東京と大阪である。この二つの都市のうち、おいしい食文化のみならず、旅行者が京都、奈良、そして神戸という隣接した都市に容易に行くことができるから、大阪がほぼ間違いなくよいだろう。言い換えれば、一つの値段で四つの都市が楽しめるのだ。奈良は、特に街の東部に足を向けると、とりわけ魅力的である。そこには、鹿が直接あなたの元に寄ってくる奈良公園があり、鹿煎餅を与えることができる。また日本の古都として、興福寺や東大寺など古いお寺がある。東大寺はそれ自体が世界で一番大きな木造建造物であり、大仏が納められている。さらに東に進むと、樹木に覆われた小道の最後に春日大社がある。もし偶然11月に奈良にいたら、正倉院の実に様々な宝物、古代の絨毯から美しく保存された楽器まであらゆる工芸品が奈良国立博物館に展示されている、を訪れることができる。これらの宝物は8世紀以前にさかのぼり、756年の聖武天皇の死後に保存された。そして12月の中頃なら、奈良の最も有名な祭りのひとつ、春日若宮おん祭を見ることができる。そこでは、古代の舞楽から雅楽の一風変わった音楽まで、様々な伝統的日本の行事が行われている。奈良は、楽しみの宝物を提供している。それは旅行者にとって探検するに十分に値するものだ。

【解答】 (20点)

16	①	17	⑨	18	⑦	19	⑧	20	③
21	④	22	②	23	⑤	24	⑥	25	⑩

(各2点×10)

【解説】

海外、特にアジアの近隣の国々からの旅行者が増えています。筆者は東京と大阪なら、訪問地としては京都や奈良、神戸などが近い大阪を推薦しています。中

でも、季節ごとの奈良の見所を具体的に紹介していません。

難易度の高い語彙は使われていませんので、空所の前後の単語に注意しながら、まず入るべき品詞を確認します。そして、文脈から文意を捉えて読み進めると解答をみつけることができます。

【Ⅲ】

【解答】 (18点)

26	②	27	⑤	28	①
29	⑨	30	③	31	⑦

(各3点×6)

【解説】

ジョンがマイクに『スパイダーマン：ホームカミング』を観たいと話し、ふたりで日程の検討を始めます。ジョンは、金曜日は授業が4時までなので、その後の6時からの上映分を提案しますが、マイクは授業が午後6時まであります。そこで土曜日にアルバイトがあるジョンが日曜日ならと提案したところ、ふたりの予定が合いました。2時半の上映分に決め、映画館で2時に待ち合わせることになりました。マイクが事前にインターネットで席を予約します。

対話文は情報のやりとりになりますから、会話の自然な展開に注意してください。

【Ⅳ】

【大意】

テニス、サッカー、陸上競技、ピアノやバンド。日曜学校への参加に加えて、単に外遊びをして育った者にとってはたくさんのように思える。けれども、わかったことはこうだ。少なくとも週日の午後6時までのケア、宿題、読書、あちこちからのお呼ばれ、そしてペットとのものである。9歳になる娘の休憩時間は十分に残されているので、わたしが、まだ画面(PCや携帯電話のスクリーン)を見ている時間を制限しなければならないということ。そして、それは画面が多くない世帯でのことなのだ。

もし一人親という使い古された決まり文句が、余暇がスポーツや塾、音楽のお稽古ごとであふれて予定超過の子どもたちという決まり文句よりよく知られているなら、それは運動や新鮮な空気、人との関わりに餓えたビデオゲームの前で元気なく過ごす青白い子どもについてのことになる。二者択一を考えると、忙しいことはそんなに悪いことなのだろうか。

腹を立てている親と同様に多くの教育者や研究者が、特にデジタルの誘惑が多い今日では、計画された生活様式の恩恵を歓迎している。「休憩時間は画面を見る時間になった」とDelaney Rustonは論じている。彼

女は内科医であり、デジタル世界の子育ての課題を調べた2016年のドキュメンタリー映画“Screenagers”を作った映画制作者でもある。Rustonが言う彼女の映画があぶり出した主な神話のひとつが、子どもたちは予定超過であるという概念である。

もちろん、隅っこで本を読んだり、ボードゲームで遊んだり、木登りしたり、考え事に耽ったりするのは価値がある。けれども現実問題として、多くの家庭では、何らかの画面がそうした体系化されていない活動と激しく競い合っているのだ(結局のところ、樹上の家でもビデオゲームで遊べるのだから)。もっと驚くべき統計データでは、今日では、学校で過ごす時間よりも長く画面を見て過ごす子どもたちもいるのだ。

一方で、サッカーやバンド、ガールスカウトやボーイスカウト、またはコティオンに没頭している子どもたちはかなり確実に画面との関係を切っているのだ、少なくとも数時間の間は。そしてそれ自体が大きな特典である、運動や楽器を弾けるようになったりテーブルマナーがよくなったりする付加的な利益がなくても。

研究者らは、子どもたちが予定された活動で時間を使いすぎているというこの考えを長い間押し戻そうとしてきた。非営利研究グループであるChild Trendsが出した2008年の報告書“The Overscheduling Myth”には、「一般通念と異なり、研究(結果)は、大部分または多くの子どもたちや若者が予定超過であり、その結果として苦しんでいるという考えを否定した。」と報告している。その報告書には、予定された活動から得られる恩恵の長いリスト、高い自尊心から、やがてはドラッグやアルコールの使用率の低さまで、を参考文献としてつけている。また様々な活動に参加している子どもたちは通例生活のバランスを維持することができる、とも報告している。一般的に子どもたちは学業と、ゲーム遊びや家事またはテレビを見たり、といったその他の予定されていない活動に多くの時間を使っている。

今日ではもちろんテレビは、画面を見る時間を心配しているどの親にとっても、心配の中では些細なものになっている。そして個別の親が画面に何度も戦いをしかけても、画面が勝利する。多くの子どもたちは電話を持っていて、画面の前でたくさんの宿題をするように求められている。つまり画面の前では絶え間なく気を散らす「もと」がある、ということだ。

親の間では、自分たちの予定超過の日々を責める傾向がある。わたしたちが子どもたちに他のレッスン、クラブやスポーツなどをさせたというのに「子どもたちが誰も遊ばないから気が滅入っているか」という記事に引きつけられる。しかしながら現実には、子育ての「ただ遊ぶ」モデルが、より自然に即して牧歌的に見える一方で、時すでに遅し、である。

Rustonは子どもたちを活動に参加させる時間やお金

一般入試／英語(前期)

がある親が特権階級であると強調している。今やすべての所得水準の大多数の家庭ではなんらかのインターネット接続ができ、彼女は、ほんとうの情報格差は、他の系統だった活動の助けを借りて相対的なバランスでテクノロジーを利用している家庭と、他の選択肢がないために画面を見ることに時間を費やしすぎている家庭との間にあると言っている。

Washington州北西部のAlice Deal Middle Schoolでは、6年生、7年生、8年生が、合唱団から詩の会、ディベートや瞑想などの70の異なる放課後活動を選ぶことができる。校長のJames Albrightによると主として“fill the hour between 3:30 and 4:30”(3時半から4時半の時間を埋める)ためにデザインされた登録簿である。

【解答】 (32点)

32	⑤	33	②	(4点)				
34	①	35	②	(4点)				
36	④	37	③	(4点)				
38	②	39	⑥	40	⑦	41	⑩	(順不同OK) (各5点×4)

【解説】

問1

- (A) の空所は、than they do in schoolとなります。more がヒントになります。
- (B) の空所は、who are involved in multiple です。関係詞節とbe involved inの表現に注意してください。
- (C) の空所は、are required to do a です。「～することを求められる」の意味です。

問2

- ① 第1段落には子どもたちがstudy hard だとは書かれていません。
- ② 第2段落にこの内容に合致する記述があります。
- ③ 第3段落で、研究者たちは予定がたくさんある毎日が子どもたちにとってよい、と述べています。
- ④ “Screenagers”はデジタル時代の子育てについての課題のドキュメンタリー映画です。
- ⑤ 第4段落には、子どもにとって木登りを経験するよさが書かれています。
- ⑥ 第5段落に、こうした活動に参加することが子どもたちを画面から遠ざけるとの記述があります。
- ⑦ 第6段落にこの内容に一致する記述があります。
- ⑧ 「ただ遊んでいる子どもたちは気分が落ち込みそうにない」は、第8段落の第2文の内容と一致し

ません。

- ⑨ 第9段落の説明とこの文は一致しません。
- ⑩ 最後の段落の内容と一致します。